

質問（付7 関連）

1. 「1.2 曲げひび割れ幅算定式」について

「曲げひび割れ幅算定式におけるスラブの有効引張断面積の計算方法」を見直した理由は何でしょうか。式の簡略化のみでしょうか。

2. 「1.4 スラブの曲げひび割れ幅から定まる鉄筋応力度」について

「スラブの曲げひび割れ幅から定まる鉄筋応力度の簡便な求め方」として「簡易計算式」から「算定図表による方法」に変更した理由は何でしょうか。グラフを作成した計算式の一例を示して頂けますでしょうか。

(JSCA 関西支部 RC 分科会)

回答

1. スラブの有効引張断面積の計算方法は、2010年版では、幅方向を鉄筋間隔  $S$  と  $2(2C + d_b)$  の小さい方としていましたが、その根拠は明確ではありませんでした。改めて実験結果と比較して検証し、2018年版では、鉄筋間隔  $S$  のみで計算する方法に見直しを行いました。結果として算定式の簡略化にもなっています。

2. 実務での使いやすさを考え、簡易計算式から算定図表に変更しています。また算定図表の方が視覚的にも求める鉄筋応力度がイメージしやすいと考えました。RC 規準付図 7.4 に示すように、 $\sigma_1 \sim \sigma_3$  の3つのグラフのうち、鉄筋応力度が最小となるものが算定図表で使用している曲線であり、影響の大きいかぶり厚さ、乾燥収縮ひずみごとにまとめて記載したものが付図 7.5 の算定図表です。詳しくは付7の参考文献5)を参照願います。